

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202289		
法人名	公益財団法人弘仁会		
事業所名	グループホームてまり		
所在地	倉敷市玉島2-24-10		
自己評価作成日	令和4年2月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigvosyoCd=3370202289-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和4年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高台にある閑静で景観の良い住宅地に立地している。母体が玉島病院で、健康面では、すぐに対応出来るため、入居者・ご家族に安心していただいている。また、関連施設に介護医療院もあり、今後、重度化した時の受け入れ先ともなる。GHの理念が「生きるよろこび」で、少人数の特性を生かして、入居者一人一人に合った個別ケアを実践している。今までの人生に沿って、これからの人生を、はり合いを持って、生きていただけるように、職員一同考えている。食事は、職員がメニューを考え、入居者に手伝ってもらって作っている。旬の物・入居者の食べたい物・行事食などを取り入れている。地域との関係も良好であったが、コロナのため、ここ2年間は、関わっていない。多くの方に利用していただけるように安い利用料で運営しており、生活保護の方の受け入れも行っている。

コロナ禍で外出や面会に制限がある中、利用者のストレスを軽減する為、日頃からコミュニケーションを図るよう心掛けている。利用者一人ひとりを尊重し、理念である「生きるよろこび」を持ちながら続けることができるように個別の支援をしている。介護計画に反映させ、張り合いのあるプラン作成に努め、本人の生きる力に繋げている。「生きるよろこび」に加え「食べるよろこび」も大切であると考え、食事作りに力を注いでいる。夏祭りやクリスマス会等は、料理に工夫を凝らし、雰囲気を変え楽しんで貰った。「食事が工夫され、本人が美味しいと喜んでいる」と、家族アンケートの結果からも高評価を得ていることが窺える。職員の年齢層は20代～60代と幅広い。勤務年数の長い職員も多く、何でも話し合える良好な関係性が築けている。職員は「入居者に寄り添う仕事」と捉え、温かい支援提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を、玄関に掲示している。 朝の申し送り時に、唱和している。 入居者が、ただ生活するだけでなく、はり合いを持った生活が出来るように援助している。	「生きるよろこび」を理念とし、具体的な5項目の行動・目標を挙げている。支援の根底を為すものとして大切にし、職員間の共有を図っている。張り合いを持った生活から「生きるよろこび」を引き出す支援ができるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、コロナ禍の中、町内清掃が行われる時には参加している。玉島東中学校区人権学習推進委員会の「ふれあい交流会」の予約を受けているが、コロナの為、ここ2年間行えていない。	地域交流を積極的に図り、良好な関係性を築いてきた。コロナ禍で交流会は中断しているが、地域の草取りに参加したり、顔を合わせたりした時には情報交換をし、避難時の協力を依頼する等、関係継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での相談や見学(アクリル板越しで話を聞く)では、時間をかけて話を聞き、GHだけでなく、様々な方向性について、アドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、ここ2年間、開催出来ない。	地域包括支援センター職員・老人会等地域代表・元入居者家族・家族代表・地域その他グループホーム管理者等の参加があり、2か月毎に開催されていた。地域で必要とされる役割を担い、地域の理解と支援を得てきた。	議事録を作成し、参加メンバーに送付し、意見を聞いて欲しい。現状理解と共に、これまで培ってきた良好な関係性の継続を図り、再開催に繋げることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターよりの相談で、数名の方の受け入れを行っている。ここ数年増えている成年後見制度や生活保護の申請にも関わっている。	介護保険課・福祉課・地域包括支援センター職員と情報の共有を図り、協働関係の構築に努めている。PCR検査や、簡易検査キット・マスク・消毒液等の配布の案内があり、連携して感染予防対策に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GHの年間の勉強計画に、2回入れており、職員会議で勉強会を行っている。3ヶ月に1度、「身体拘束廃止委員会」を管理者で行っている。法人内や外部の研修会にも参加している。	まずは気付くことが大切であると考え、研修を充実させている。法人全体での研修・ズームでの外部研修等もあり、職員の意識付けを図っている。禁止用語を決め、言葉遣いに気を配り、抑圧感のない暮らしが支援できるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GHの年間の勉強計画に、2回入れており、職員会議で勉強会を行っている。3ヶ月に1度、「虐待防止委員会」を管理者で行っている。法人内や外部の研修会にも参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見制度を利用されている方が4名おり、その申請から関わっている。後見人の方から、制度について教えていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、管理者が十分な説明を行い、また、新しく加わったことや変わったことがあれば、その都度文書にして説明し、ご理解いただきサインをもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため、電話や2度あったアクリル板越しの面会の時に、現状を報告し、要望などをお聞きしている。ケアプランにご家族の要望の覧を入れている。入居者の要望は、出来るだけかなえるようにしている。	家族会は、春の花見や秋のてまり祭りと一緒に開催し、コミュニケーションを図ってきた。コロナ禍で開催できず電話で近況報告をし、意見や要望を聞き取る努力をしている。介護計画を郵送し、家族の要望欄に記入してもらっている。	自筆の手紙と写真を送り、利用者の近況報告をしている。家族から「嬉しく思っている」との言葉を貰っている。今後も継続し、家族に笑顔と安心をもたらす手段として、さらなる活用に期待を寄せる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、人事考課を行っており、個別面談の時に話を聞いている。朝の申し送りや月1回の職員会議で意見を出し合っている。何かあれば、個別に時間を作り、話を聞いている。	管理者との個別面談で、職員の意見や要望を聞き取っている。月1回の院長訪問もあり、職員の要望を伝えている。ケアに関しての意見や提案は多くあり、原因を考え試行する等、職員意見を基に改善に向けて話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行っている。 職員から出た意見は、管理者が代表者に伝えている。月に1回、代表者が事業所を訪れ、職員の意見を聞き、改善案を検討してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得への金銭面のバックアップが充実してきている。法人内だけでなく、外部の研修(Zoom等)へも積極的に参加している。ほとんどの職員が、ここでの経験をいかし、資格を取得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナのため、他のGHも運営推進会議を行っていないため、交流が出来ていない。分らないことなどは、電話で相談している。法人内の他事業所とは意見交換を行っている。		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、訪問または来所していただき、しっかりと話を聞き、コミュニケーションをすることで、信頼関係を築けるようにしている。居宅・他サービス事業所等からも情報をもらい、現況を把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の訪問・来所等で、しっかりと話をお聞きし、安心・信頼されるように努めている。本人・ご家族が、どういう暮らしを望まれるかをお聞きし、ケアプランに取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の思いをお聞きし、本人にとって最適な方向を話し合っている。GH以外のサービスの情報も提供し、何が今必要かを、一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事・手工芸・体操・レクなど、何かをする時は、職員と一緒にいき、労いの言葉を忘れず、達成感・喜びを共有出来るようにしている。スタッフ・入居者が、気軽にお喋りし、笑い合えるような雰囲気を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば、すぐに連絡し、協力を求めている。年に3回ほど、写真を添えた手紙をご家族に送って、入居者の状況をお伝えしている。ご家族と一緒に受診に行かれる時には、緊急時のフェイスシートを預けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	この2年間、コロナが収まりかけた時に、2度の面会(アクリル板越し)を設けた。短い時間ではあったが、顔合わせが出来た。電話でお話をされる方もいる。	年賀状の返信や礼状の支援をしている。贈物の礼状用に利用者の写真を用いた葉書を作り、喜ばれた。友人に買い物を頼む利用者もいる。コロナ禍で面会はできないが、馴染みの関係継続の為、玄関先まで届けて貰っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の橋渡しや話題の提供、テレビを見ながらの話しのきっかけを作り、入居者同士の会話が盛り上がるようにしている。入居者同士が話し合っている時には、あまり口をはさまないようにして、見守っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方のお見舞いに行ったり、ご家族の、現在の不安や不満、今後どうしたいかという相談にもっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、しっかりとコミュニケーションを取り、本人の要望・不安・不満などの本当の気持ちを聞いて、ケアに生かすようにしている。常に入居者本位で考え、介助している。	毎日の様子を見ながら、変化を捉えていくことが大切であると考えている。管理者は、職員に「コミュニケーションがしっかり取れていると介護は拒否されない」と伝えている。一人ひとりを個人として尊重し、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集時に、本人・ご家族・関係機関から、情報をしっかり取っている。入居後も本人・ご家族から、どういう暮らしをしてきたかをお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日のバイタル・表情・食欲・排泄・歩行状態に注意し、異変には、早期に気づけるように努めている。本人の体の状態や気持ちに添いながら、出来ることを援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の言葉に耳を傾けながら、何が最適かを、スタッフ全員で意見交換し、ケアプランの作成、再考を行っている。医師・看護師など他職種にも相談している。	個人のチェック表にプランが明記しており、プランに添った支援提供に努めている。家族からは「人との関りを増やす・できる事は自分で」等の具体的な要望があり、プランに取り入れ、本人の生きる力に繋げるプラン作りを心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った介護記録を書き、スタッフ全員が目を通している。毎朝の申し送り、情報交換を行っている。月1回の職員会議で、全員のケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族にとって、今何が必要かを考え、他サービスの利用、生活保護の申請、成年後見制度の利用などを、多職種とも相談しながら、話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出が出来ないため、NHK回想法ライブラリーを見たり、入居者の昔話から、この地域の変遷を思い出してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人・ご家族に決めていただいている。同行するご家族には、入居者の現状やドクターへの連絡事項を伝えている。また、必要な時には、同行するようにしている。	母体病院の受診は、職員が同行している。他医療機関の受診は家族同行を依頼しているが、情報共有を図る必要がある時には職員も付き添っている。前院長訪問が月2回、院長訪問も月1回ある。訪問看護も週1回ある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護が入っており、入居者の健康管理について相談し、アドバイスや受診の指示をもらっている。 緊急時訪問にも対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	玉島病院が母体であり、常に相談できる状態にある。何かあれば、早目の受診を行っている。他病院の場合、ご家族・病院の関係者から話を聞き、現状把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化に対する指針を説明している。その時に、同意書にサインしていただいている。 入居者が重度化した場合、今後どうしていくかを、本人・ご家族と話し合っている。	事業所としての対応を説明し、理解を得ている。本人・家族の希望があれば対応は可能である。重度化を迎え、医療の必要度が増した時点で話し合い、対応方針の共有を図っている。延命治療についても確認している。関連施設に病院・介護医療院があり、家族の安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、掲示している。入居者一人一人の緊急時用のフェイスシートを作り、救急搬送時に使用している。AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練・消火訓練を行っている。地域の方に参加していただいていたが、この2年間は、職員だけで行った。全ての職員が参加出来るように、勤務を考えている。	火災想定避難訓練を定期的実施し、手順・避難経路・機器の確認をしている。反省点や、課題点を記録に残し、次回の訓練に活かしている。所要時間も短縮されてきており、確実に適正な行動がとれるようになってきた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルを作成している。法人内や事業所で接遇の勉強会を行っている。法人内の接遇委員会に参加し、標語を掲示している。常に言葉使いに気を付けている。	一人ひとりを個人として尊重している。言葉遣いに気を配り、スピーチロックをしないよう心掛けている。トイレ誘導は本人にだけ分かる声かけを工夫している。職員間の申し送りは、離れた場所で行う等プライバシー保護にも留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者主体であり、出来る限り、本人の気持ちに沿うように努力している。 入居者との関わりの中で、信頼関係を築き、思いを汲み上げるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間など、おおまかなスケジュールは決めているが、基本的には、本人の気分や体調に合わせている。思うように過ごしていただき、ストレスを溜めないようにしている。。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて、着る服と一緒に選んだり、朝の整容など、本人の意向に沿って援助している。靴は何足か持ってきてもらい、本人に選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、職員がメニューを考え作っている。入居者には、能力に合わせて、調理に参加していただいている。好みの物や季節の物をメニューに取り入れている。その人に合わせた食べやすい形態で提供している。	季節の食材を使ったバランスの良い家庭料理を作っている。誕生日会に本人の好みの料理を提供したり、時には弁当を頼んだりして変化も楽しんでいる。恒例のらっきょう漬けの時は、利用者が皮むきを担当し、力量を発揮して貰っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は体重増加・カロリーオーバーなどを考えながら変えている。水分は食事時・おやつ時に限らず、その人に合わせて勧め、飲みやすい物・好きな物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアに誘い、入れ歯・口腔内を洗浄していただいている。出来るだけ自分でしていただき、出来ないところを援助している。院内の口腔摂食委員会に参加し、月1回は歯科衛生士に来てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。時間や排泄の有無は記録している。夜間のトイレやポータブルトイレの使用を、声掛けしたり、見守り・援助している。	排泄チェック表を活用し、早めの誘導を心掛けている。定期的に誘導することで気持ちの良いトイレでの排泄に繋げている。排泄用品の見直しや検討を行い、一人ひとりの能力やパターンに合わせた個別の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や水分をしっかりと摂取できるように声かけ援助している。排便困難な方には、腹部マッサージを行っている。毎日の体操や歩くことを勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番等は、本人の希望を聞きながら行っている。その日の体調や持病を考えながら、無理をせず、入浴を楽しんでいただけるようにしている。お湯の温度も、本人の希望に沿うようにしている。	体調が優れない時は、別の日にシャワー浴で対応したり、同性介助の希望を聞き入れたりして、無理のない入浴支援に努めている。浴室と脱衣所の温度差に気を付けている。皮膚の乾燥にも留意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドの位置や高さ、寝る向き、部屋の明るさ、室温など、個人に合わせて変えている。日中、部屋で休みたい方には、夜間の睡眠に響かない程度で、自由にさせていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報をファイルしており、誰が・いつ・何を飲んでいるかを把握している。新しい薬が処方された時には、状態をしっかりと観察して、経過観察表に記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活上の役割を分担し、好きなこと・出来ることに、能力を発揮出来るように、スタッフが見守りながら、一緒に行っている。その人らしい生活が送れるように援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナのため、外出は出来ない。 玄関前で、日光浴をするぐらい。 コロナが、収まれば、大いに外出したい。	コロナ禍が落ち着けば、近くの「山神様」の祠まで散歩に出かけたり、数名ずつのドライブで、車中から季節の移ろいを感じてもらう等の外出支援を考えている。今はまだ外出できないが、見晴らしの良い玄関先から街並みを眺める等、外気に触れる機会を作っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	この2年間、外出できないため、必要な物や壊れた物があれば、お預かりしているお金で、職員が買ってきて、本人に渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話番号を回して、本人に出ていただいている。ご家族からの電話には、ゆっくり話が出来る環境を作っている。ご家族からのハガキは、本人が読めない時は、スタッフが一緒に読んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物を、入居者と共に製作している。入居者の写真コーナーをよく見える所に作っており、いつでも見れるようにしている。玄関の前や入った所に季節の花を飾っている。	温度計で確認しながら、快適な温度・湿度・換気に留意している。居間にはソファ、廊下やエレベーター前には椅子が置き、思い思いの場所で過ごすことができる。ゆっくり過ごせる空間になっており、カラオケは中止しているが、職員手作りの脳トレゲームを楽しむ人もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・廊下に、ソファやイスを置いており、自由に移動し、自分の心地よい場所で過ごせるようにしている。自室でテレビを見たり横になる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家にあった使い慣れた物(家具・仏壇・テレビなど)や写真を持ってきていただき、危険のない限りで、本人・ご家族の思い通りに配置していただいている。	車椅子の人も増えてきた。安全な動線を考慮し、家具やポータブルトイレの配置を検討している。テレビを見たり、漫画を読んだり、化粧をする人もいる。これまでの生活習慣が継続でき、寛いで過ごすことができる居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札や目印、居室内のベッドや家具の位置、トイレ・フロなどの共用場所への手すりの増加など、自力でできることが増やせるように。入居者に合わせて行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202289		
法人名	公益財団法人弘仁会		
事業所名	グループホームてまり		
所在地	倉敷市玉島2-24-10		
自己評価作成日	令和4年2月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370202289-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和4年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高台にある閑静で景観の良い住宅地に立地している。母体が玉島病院で、健康面では、すぐに対応出来るため、入居者・ご家族に安心していただいている。また、関連施設に介護医療院もあり、今後、重度化した時の受け入れ先ともなる。GHの理念が「生きるよろこび」で、少人数の特性を生かして、入居者一人一人に合った個別ケアを実践している。今までの人生に沿って、これからの人生を、はり合いを持って、生きていただけるように、職員一同考えている。食事は、職員がメニューを考え、入居者に手伝ってもらって作っている。旬の物・入居者の食べたい物・行事食などを取り入れている。地域との関係も良好であったが、コロナのため、ここ2年間は、関わっていない。多くの方に利用していただけるように安い利用料で運営しており、生活保護の方の受け入れも行っている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を、玄関に掲示している。 朝の申し送り時に、唱和している。 入居者が、ただ生活するだけでなく、はり合いを持った生活が出来るように援助している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、コロナ禍の中、町内清掃が行われる時には参加している。玉島東中学校区人権学習推進委員会の「ふれあい交流会」の予約を受けているが、コロナの為、ここ2年間行えていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での相談や見学(アクリル板越しで話を聞く)では、時間をかけて話を聞き、GHだけでなく、様々な方向性について、アドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、ここ2年間、開催出来ない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターよりの相談で、数名の方の受け入れを行っている。ここ数年増えてきている成年後見制度や生活保護の申請にも関わっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GHの年間の勉強計画に、2回入れており、職員会議で勉強会を行っている。3ヶ月に1度、「身体拘束廃止委員会」を管理者で行っている。法人内や外部の研修会にも参加している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GHの年間の勉強計画に、2回入れており、職員会議で勉強会を行っている。3ヶ月に1度、「虐待防止委員会」を管理者で行っている。法人内や外部の研修会にも参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見制度を利用されている方が4名おり、その申請から関わっている。後見人の方から、制度について教えていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、管理者が十分な説明を行い、また、新しく加わったことや変わったことがあれば、その都度文書にして説明し、ご理解いただきサインをもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため、電話や2度あったアクリル板越しの面会の時に、現状を報告し、要望などをお聞きしている。ケアプランにご家族の要望の覧を入れている。入居者の要望は、出来るだけかなえるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、人事考課を行っており、個別面談の時に話を聞いている。朝の申し送りや月1回の職員会議で意見を出し合っている。何かあれば、個別に時間を作り、話を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行っている。 職員から出た意見は、管理者が代表者に伝えている。月に1回、代表者が事業所を訪れ、職員の意見を聞き、改善案を検討してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得への金銭面のバックアップが充実してきている。法人内だけでなく、外部の研修(Zoom等)へも積極的に参加している。ほとんどの職員が、ここでの経験をいかし、資格を取得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナのため、他のGHも運営推進会議を行っていないため、交流が出来ていない。分らないことなどは、電話で相談している。法人内の他事業所とは意見交換を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、訪問または来所していただき、しっかりと話を聞き、コミュニケーションをすることで、信頼関係を築けるようにしている。居宅・他サービス事業所等からも情報をもらい、現況を把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の訪問・来所等で、しっかりと話をお聞きし、安心・信頼されるように努めている。本人・ご家族が、どういう暮らしを望まれるかをお聞きし、ケアプランに取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の思いをお聞きし、本人にとって最適な方向を話し合っている。GH以外のサービスの情報も提供し、何が今必要かを、一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事・手工芸・体操・レクなど、何かをする時は、職員と一緒にいき、労いの言葉を忘れず、達成感・喜びを共有出来るようにしている。スタッフ・入居者が、気軽にお喋りし、笑い合えるような雰囲気を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば、すぐに連絡し、協力を求めている。年に3回ほど、写真を添えた手紙をご家族に送って、入居者の状況をお伝えしている。ご家族と一緒に受診に行かれる時には、緊急時のフェイスシートを預けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	この2年間、コロナが収まりかけた時に、2度の面会(アクリル板越し)を設けた。短い時間ではあったが、顔合わせが出来た。電話でお話をされる方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の橋渡しや話題の提供、テレビを見ながらの話しのきっかけを作り、入居者同士の会話が盛り上がるようにしている。入居者同士が話し合っている時には、あまり口をはさまないようにして、見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方のお見舞いに行ったり、ご家族の、現在の不安や不満、今後どうしたいかという相談にもっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、しっかりとコミュニケーションを取り、本人の要望・不安・不満などの本当の気持ちを聞いて、ケアに生かすようにしている。常に入居者本位で考え、介助している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集時に、本人・ご家族・関係機関から、情報をしっかり取っている。入居後も本人・ご家族から、どういう暮らしをしてきたかをお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日のバイタル・表情・食欲・排泄・歩行状態に注意し、異変には、早期に気づけるように努めている。本人の体の状態や気持ちに添いながら、出来ることを援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の言葉に耳を傾けながら、何が最適かを、スタッフ全員で意見交換し、ケアプランの作成、再考を行っている。医師・看護師など他職種にも相談している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った介護記録を書き、スタッフ全員が目を通している。毎朝の申し送りで、情報交換を行っている。月1回の職員会議で、全員のケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族にとって、今何が必要かを考え、他サービスの利用、生活保護の申請、成年後見制度の利用などを、多職種とも相談しながら、話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出が出来ないため、NHK回想法ライブラリーを見たり、入居者の昔話から、この地域の変遷を思い出してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人・ご家族に決めていただいている。同行するご家族には、入居者の現状やドクターへの連絡事項を伝えている。また、必要な時には、同行するようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護が入っており、入居者の健康管理について相談し、アドバイスや受診の指示をもらっている。 緊急時訪問にも対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	玉島病院が母体であり、常に相談できる状態にある。何かあれば、早目の受診を行っている。他病院の場合、ご家族・病院の関係者から話を聞き、現状把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化に対する指針を説明している。その時に、同意書にサインしていただいている。 入居者が重度化した場合、今後どうしていくかを、本人・ご家族と話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、掲示している。入居者一人一人の緊急時用のフェイスシートを作り、救急搬送時に使用している。AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練・消火訓練を行っている。地域の方に参加していただいていたが、この2年間は、職員だけで行った。全ての職員が参加出来るように、勤務を考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルを作成している。法人内や事業所で接遇の勉強会を行っている。法人内の接遇委員会に参加し、標語を掲示している。常に言葉使いに気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者主体であり、出来る限り、本人の気持ちに沿うように努力している。 入居者との関わりの中で、信頼関係を築き、思いを汲み上げるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間など、おおまかなスケジュールは決めているが、基本的には、本人の気分や体調に合わせている。思うように過ごしていただき、ストレスを溜めないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて、着る服を一緒に選んだり、朝の整容など、本人の意向に沿って援助している。靴は何足か持ってきてもらい、本人に選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、職員がメニューを考え作っている。入居者には、能力に合わせて、調理に参加していただいている。好みの物や季節の物をメニューに取り入れている。その人に合わせた食べやすい形態で提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は体重増加・カロリーオーバーなどを考えながら変えている。水分は食事時・おやつ時に限らず、その人に合わせて勧め、飲みやすい物・好きな物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアに誘い、入れ歯・口腔内を洗浄していただいている。出来るだけ自分でしていただき、出来ないところを援助している。院内の口腔摂食委員会に参加し、月1回は歯科衛生士に来てもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。時間や排泄の有無は記録している。夜間のトイレやポータブルトイレの使用を、声掛けしたり、見守り・援助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や水分をしっかりと摂取できるように声かけ援助している。排便困難な方には、腹部マッサージを行っている。毎日の体操や歩くことを勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番等は、本人の希望を聞きながら行っている。その日の体調や持病を考えながら、無理をせず、入浴を楽しんでいただけるようにしている。お湯の温度も、本人の希望に沿うようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドの位置や高さ、寝る向き、部屋の明るさ、室温など、個人に合わせて変えている。日中、部屋で休みたい方には、夜間の睡眠に響かない程度で、自由にさせていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をファイルしており、誰が・いつ・何を飲んでいるかを把握している。新しい薬が処方された時には、状態をしっかりと観察して、経過観察表に記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活上の役割を分担し、好きなこと・出来ることに、能力を発揮出来るように、スタッフが見守りながら、一緒に行っている。その人らしい生活が送れるように援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナのため、外出は出来ていない。玄関前で、日光浴をするぐらい。コロナが、収まれば、大いに外出したい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	この2年間、外出できないため、必要な物や壊れた物があれば、お預かりしているお金で、職員が買ってきて、本人に渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話番号を回して、本人に出ていただいている。ご家族からの電話には、ゆっくり話が出来る環境を作っている。ご家族からのハガキは、本人が読めない時は、スタッフが一緒に読んでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物を、入居者と共に製作している。入居者の写真コーナーをよく見える所に作っており、いつでも見れるようにしている。玄関の前や入った所に季節の花を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・廊下に、ソファやイスを置いており、自由に移動し、自分の心地よい場所で過ごせるようにしている。自室でテレビを見たり横になる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家にあった使い慣れた物(家具・仏壇・テレビなど)や写真を持ってきていただき、危険のない限りで、本人・ご家族の思い通りに配置していただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札や目印、居室内のベッドや家具の位置、トイレ・フロなどの共用場所への手すりの増加など、自力でできることが増やせるように。入居者に合わせて行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202289		
法人名	公益財団法人弘仁会		
事業所名	グループホームてまり		
所在地	倉敷市玉島2-24-10		
自己評価作成日	令和4年2月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370202289-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和4年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高台にある閑静で景観の良い住宅地に立地している。母体が玉島病院で、健康面では、すぐに対応出来るため、入居者・ご家族に安心していただいている。また、関連施設に介護医療院もあり、今後、重度化した時の受け入れ先ともなる。GHの理念が「生きるよろこび」で、少人数の特性を生かして、入居者一人一人に合った個別ケアを実践している。今までの人生に沿って、これからの人生を、はり合いを持って、生きていただけるように、職員一同考えている。食事は、職員がメニューを考え、入居者に手伝ってもらって作っている。旬の物・入居者の食べたい物・行事食などを取り入れている。地域との関係も良好であったが、コロナのため、ここ2年間は、関わっていない。多くの方に利用していただけるように安い利用料で運営しており、生活保護の方の受け入れも行っている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を、玄関に掲示している。 朝の申し送り時に、唱和している。 入居者が、ただ生活するだけでなく、はり合いを持った生活が出来るように援助している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、コロナ禍の中、町内清掃が行われる時には参加している。玉島東中学校区人権学習推進委員会の「ふれあい交流会」の予約を受けているが、コロナの為、ここ2年間行えていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話での相談や見学(アクリル板越しで話を聞く)では、時間をかけて話を聞き、GHだけでなく、様々な方向性について、アドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、ここ2年間、開催出来ない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターよりの相談で、数名の方の受け入れを行っている。ここ数年増えてきている成年後見制度や生活保護の申請にも関わっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GHの年間の勉強計画に、2回入れており、職員会議で勉強会を行っている。3ヶ月に1度、「身体拘束廃止委員会」を管理者で行っている。法人内や外部の研修会にも参加している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GHの年間の勉強計画に、2回入れており、職員会議で勉強会を行っている。3ヶ月に1度、「虐待防止委員会」を管理者で行っている。法人内や外部の研修会にも参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見制度を利用されている方が4名おり、その申請から関わっている。後見人の方から、制度について教えていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、管理者が十分な説明を行い、また、新しく加わったことや変わったことがあれば、その都度文書にして説明し、ご理解いただきサインをもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため、電話や2度あったアクリル板越しの面会の時に、現状を報告し、要望などをお聞きしている。ケアプランにご家族の要望の覧を入れている。入居者の要望は、出来るだけかなえるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、人事考課を行っており、個別面談の時に話を聞いている。朝の申し送りや月1回の職員会議で意見を出し合っている。何かあれば、個別に時間を作り、話を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行っている。 職員から出た意見は、管理者が代表者に伝えている。月に1回、代表者が事業所を訪れ、職員の意見を聞き、改善案を検討してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得への金銭面のバックアップが充実してきている。法人内だけでなく、外部の研修(Zoom等)へも積極的に参加している。ほとんどの職員が、ここでの経験をいかし、資格を取得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナのため、他のGHも運営推進会議を行っていないため、交流が出来ていない。分らないことなどは、電話で相談している。法人内の他事業所とは意見交換を行っている。		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、訪問または来所していただき、しっかりと話を聞き、コミュニケーションをすることで、信頼関係を築けるようにしている。居宅・他サービス事業所等からも情報をもらい、現況を把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の訪問・来所等で、しっかりと話をお聞きし、安心・信頼されるように努めている。本人・ご家族が、どういう暮らしを望まれるかをお聞きし、ケアプランに取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の思いをお聞きし、本人にとって最適な方向を話し合っている。GH以外のサービスの情報も提供し、何が今必要かを、一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事・手工芸・体操・レクなど、何かをする時は、職員と一緒にいき、労いの言葉を忘れず、達成感・喜びを共有出来るようにしている。スタッフ・入居者が、気軽にお喋りし、笑い合えるような雰囲気を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば、すぐに連絡し、協力を求めている。年に3回ほど、写真を添えた手紙をご家族に送って、入居者の状況をお伝えしている。ご家族と一緒に受診に行かれる時には、緊急時のフェイスシートを預けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	この2年間、コロナが収まりかけた時に、2度の面会(アクリル板越し)を設けた。短い時間ではあったが、顔合わせが出来た。電話でお話をされる方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の橋渡しや話題の提供、テレビを見ながらの話しのきっかけを作り、入居者同士の会話が盛り上がるようにしている。入居者同士が話し合っている時には、あまり口をはさまないようにして、見守っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方のお見舞いに行ったり、ご家族の、現在の不安や不満、今後どうしたいかという相談にもっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、しっかりとコミュニケーションを取り、本人の要望・不安・不満などの本当の気持ちを聞いて、ケアに生かすようにしている。常に入居者本位で考え、介助している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集時に、本人・ご家族・関係機関から、情報をしっかり取っている。入居後も本人・ご家族から、どういう暮らしをしてきたかをお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日のバイタル・表情・食欲・排泄・歩行状態に注意し、異変には、早期に気づけるように努めている。本人の体の状態や気持ちに添いながら、出来ることを援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の言葉に耳を傾けながら、何が最適かを、スタッフ全員で意見交換し、ケアプランの作成、再考を行っている。医師・看護師など他職種にも相談している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った介護記録を書き、スタッフ全員が目を通している。毎朝の申し送りで、情報交換を行っている。月1回の職員会議で、全員のケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・ご家族にとって、今何が必要かを考え、他サービスの利用、生活保護の申請、成年後見制度の利用などを、多職種とも相談しながら、話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出が出来ないため、NHK回想法ライブラリーを見たり、入居者の昔話から、この地域の変遷を思い出してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人・ご家族に決めていただいている。同行するご家族には、入居者の現状やドクターへの連絡事項を伝えている。また、必要な時には、同行するようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護が入っており、入居者の健康管理について相談し、アドバイスや受診の指示をもらっている。 緊急時訪問にも対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	玉島病院が母体であり、常に相談できる状態にある。何かあれば、早目の受診を行っている。他病院の場合、ご家族・病院の関係者から話を聞き、現状把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化に対する指針を説明している。その時に、同意書にサインしていただいている。 入居者が重度化した場合、今後どうしていくかを、本人・ご家族と話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、掲示している。入居者一人一人の緊急時用のフェイスシートを作り、救急搬送時に使用している。AEDを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練・消火訓練を行っている。地域の方に参加していただいていたが、この2年間は、職員だけで行った。全ての職員が参加出来るように、勤務を考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルを作成している。法人内や事業所で接遇の勉強会を行っている。法人内の接遇委員会に参加し、標語を掲示している。常に言葉使いに気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者主体であり、出来る限り、本人の気持ちに沿うように努力している。 入居者との関わりの中で、信頼関係を築き、思いを汲み上げるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間など、おおまかなスケジュールは決めているが、基本的には、本人の気分や体調に合わせている。思うように過ごしていただき、ストレスを溜めないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて、着る服を一緒に選んだり、朝の整容など、本人の意向に沿って援助している。靴は何足か持ってきてもらい、本人に選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、職員がメニューを考え作っている。入居者には、能力に合わせて、調理に参加していただいている。好みの物や季節の物をメニューに取り入れている。その人に合わせた食べやすい形態で提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は体重増加・カロリーオーバーなどを考えながら変えている。水分は食事時・おやつ時に限らず、その人に合わせて勧め、飲みやすい物・好きな物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアに誘い、入れ歯・口腔内を洗浄していただいている。出来るだけ自分でしていただき、出来ないところを援助している。院内の口腔摂食委員会に参加し、月1回は歯科衛生士に来てもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。時間や排泄の有無は記録している。夜間のトイレやポータブルトイレの使用を、声掛けしたり、見守り・援助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や水分をしっかりと摂取できるように声かけ援助している。排便困難な方には、腹部マッサージを行っている。毎日の体操や歩くことを勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番等は、本人の希望を聞きながら行っている。その日の体調や持病を考えながら、無理をせず、入浴を楽しんでいただけるようにしている。お湯の温度も、本人の希望に沿うようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドの位置や高さ、寝る向き、部屋の明るさ、室温など、個人に合わせて変えている。日中、部屋で休みたい方には、夜間の睡眠に響かない程度で、自由にさせていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をファイルしており、誰が・いつ・何を飲んでいるかを把握している。新しい薬が処方された時には、状態をしっかりと観察して、経過観察表に記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活上の役割を分担し、好きなこと・出来ることに、能力を発揮出来るように、スタッフが見守りながら、一緒に行っている。その人らしい生活が送れるように援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナのため、外出は出来ていない。玄関前で、日光浴をするぐらい。コロナが、収まれば、大いに外出したい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	この2年間、外出できないため、必要な物や壊れた物があれば、お預かりしているお金で、職員が買ってきて、本人に渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話番号を回して、本人に出ていただいている。ご家族からの電話には、ゆっくり話が出来る環境を作っている。ご家族からのハガキは、本人が読めない時は、スタッフが一緒に読んでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物を、入居者と共に製作している。入居者の写真コーナーをよく見える所に作っており、いつでも見れるようにしている。玄関の前や入った所に季節の花を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・廊下に、ソファやイスを置いており、自由に移動し、自分の心地よい場所で過ごせるようにしている。自室でテレビを見たり横になる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家にあつた使い慣れた物(家具・仏壇・テレビなど)や写真を持ってきていただき、危険のない限りで、本人・ご家族の思い通りに配置していただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札や目印、居室内のベッドや家具の位置、トイレ・フロなどの共用場所への手すりの増加など、自力でできることが増やせるように。入居者に合わせて行っている。		